

# スクラバー搭載のVLGC命名

## ■クミアイのジクシス向け、川重建造

くみあい船舶グループのシンガポール法人クミアイナビゲーションが川崎重工業に発注した8万2200 $\text{m}^3$ 型の大型LPG船(VLGC)“Pyxis Pioneer”の命名式が10日、坂出工場で開催された。LPG元売りジクシスとの定期用船契約に投入される。川崎重工で建造される新造VLGCとして初めて硫黄酸化物(SO $_x$ )スクラバーを搭載した。

“Pyxis Pioneer”はジクシスが2015年の設立後に長期用船を決めた第一弾。今月24日に竣工する“平成最後のVLGC”となり、来たる“令和”という新しい元号の時代に向けて未来を切り拓く“パイオニア”となる。

命名式では、ジクシスの鈴木周一会長が“Pyxis Pioneer”と命名した後、鈴木会長のご令室、鈴木真理子さんによって支綱切断された。船名には同社の社名のもとになっている、羅針盤座「ピクシス」と、コーポレートステートメントのエネルギーの未来を切り拓くという「パイオニア」を組み合わせた。

“Pyxis Pioneer”は川崎重工が開発した船首形状「SEA-ARROW」を採用した8万2200 $\text{m}^3$ 型LPG船。航行時に船首部に発生する波を極限まで減少させ、プロペラの整流装置などと組み合わせることで推進性能を14.5%向上した。また、浅喫水としてジクシスの国内事業の中核地である川崎、碧南、四日市をはじめさまざまな港湾への汎用性を確保したほか、燃費性能や環境対応に配慮した最新鋭船となる。

### 「大手に劣らぬ安全運航に一丸」とクミアイ・黒柳社長

丸亀市内で同日開催された祝賀会で、船主、造船所、用船者、金融機関など関係者が集い、“Pyxis Pioneer”の命名を祝うとともに、同船に期待を寄せた。

船主を代表してあいさつに立っ

たクミアイナビゲーションの黒柳智丸マネージング・ダイレクターは、ジクシスとその前身会社へのLPG船貸船が通算8隻目になることを紹介し、「34年の長きにわたりご愛顧いただいている。ジクシスのような超一流の用船者と取引できることは船主として無上の喜びで、心が引き締まる思いだ」と感謝を述べた。「当社は大手海運会社と比べて社員数は少ないものの、LPG輸送では大手海運会社に劣らぬノウハウと36年の運航実績がある。本船でも一流の船舶管理会社とタイアップしており、本船の安全運航に社員一丸となって取り組む」と決意を語った。また、川崎重工に対しては、「1990年に建造していただいて以来VLGC 8隻を含めて本船が15隻目となる。さらに最新鋭のVLGCを含めて4隻の新造発注をしている」とした上で、このほど発注したLPG燃料推進のVLGCについても「LPG事業の将来を変貌させる可能性を秘めている。川崎重工の世界一の造船技術と卓越したノウハウを集結し、素晴らしい船になると確信している」と期待を寄せた。

式典当日は小雨だったが、川崎重工の餅田義典常務(船舶海洋カンパニープレジデント)は「フランスの結婚式では雨が降ると、花嫁が一生に泣く涙を神様が流してくれるとして幸運をもたらすと言われていたそうです。雨も小雨で



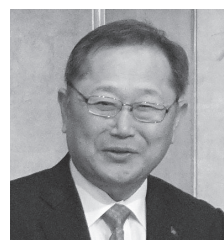
さほど気にならず、本船も良い命名式になった」と会場をわかせた。1990年から長年にわたる取引実績のあるクミアイナビゲーションに対しては「つい先日

もLPG燃料推進船を発注していただいたほか、中国の合弁造船所、NACKS(南通中遠海運川崎船舶工程)やDACKS(大連中遠海運川崎船舶工程)にも数多くの新造船を発注して頂いている」と感謝を述べた。ジクシスに対しては「本船は当社の建造船として初めてSO $_x$ スクラバーを搭載している。海上試運転の際にスクラバーの試運転をしたが、性能も良く非常に環境に優しい船として貢献できることをうれしく思う」と語った。

ジクシスは昭和シェル石油、コスモ石油、東燃ゼネラル石油、住



黒柳MD



餅田常務

友商事のLPG事業を統合して2015年発足した。乾杯の音頭を取った鈴木会長は「LPG輸送のフレキシビリティや環境規制対応、コスト競争力など大きな強みを持

つ本船とともに新たな価値を創造する世界企業をめざしていきたい」と述べた。

【主要目】全長229.9m、BDd = 226.0m × 37.2m × 21.0m × 10.63

m、4万7236総トン、5万3928重量トン、8万2391<sup>m</sup>、貨物タンク数4タンク、船級NK、主機関：川崎-MAN B&W 7S60ME-C8.2型ディーゼル機関×1基、定員29人

---